



学校だより

かけ橋

パート III

横須賀市立汐入小学校 校長室

2014. 2. 27

No. 22

元気でやりぬく子
すすんで学ぶ子
思いやりのある子

子どもも先生もがんばってます

毎年、横須賀市で学校文集を編集しています。今年は、市内の小学校から499点の応募がありました。その中から、85点の入選作品が選ばれました。そのうち、3点も汐入小の子どもの作品が選ばれました。

また、版画集「よこすか」も毎年作っています。その年の市内の版画作品から選出して作られます。約90点ほど選出される作品の中で、汐入小が3名も選ばれました。

学校規模を考えると、すごいことだと思います。個人の力は、もちろんですが、日々の授業での積み重ねの賜物だと思います。それだけでなく、家庭学習の対応など、ご家庭の協力も支えになっています。

2月24日に、第25回読書感想画中央コンクール神奈川県表彰式に行ってきました。今回、汐入小の子どもが、最優秀賞に選ばれました。そのため、その子だけでなく、汐入小学校も表彰していただけたのです。

会場の平塚市教育会館には、県内各地から、受賞者が大勢集まっています。汐入小の子も保護者の方に付き添われて、来ていました。

なぜ、作品を描いた本人だけでなく、学校まで表彰されるのでしょうか。多分、こんなに素晴らしい作品を描くには、その子の力はもちろんだが、その子を取り巻く学校の環境も素晴らしいからではないか、その環境に対して、表彰していただいたのだらうと思います。

そういえば、先日のオリンピックで金メダルを取った羽生選手も、自分のがんばる源は、ふるさと仙台の震災に遭われた人々への思いだと言っていました。人間というものは、自分のために頑張るのではなく、誰かのために頑張る方が、ずっと力を発揮できるのかもしれない。

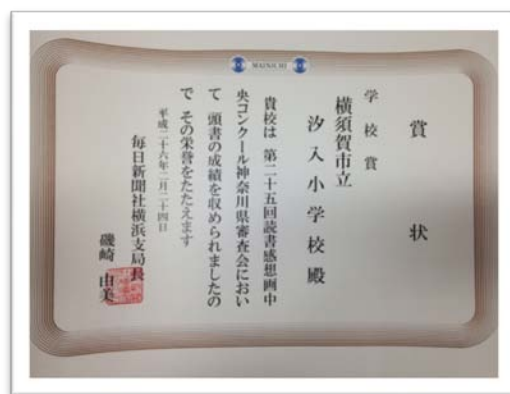
そういう意味で、個人の表彰とともに、学校という環境に対しても、表彰していただいたのだと思います。周りの子どもたちの「一緒にがんばろう」という励まし合う心、「すごいね。」という認め合う心など、日々子ども同士のコミュニケーションの中で、小規模だからこそ暖かさがあったのではないのでしょうか。

様々な賞をもらった子どもはもちろん素晴らしいのですが、賞をもらっていない子ども、学校で一生懸命過ごしていることが、支えになっているということを忘れないでほしいと思います。

今回、子どもたちだけでなく、先生方もがんばりました。横須賀市教育研究所主催の学校教育賞に応募して、奨励賞をいただきました。2月21日（金）に市役所で表彰式がありました。

それも、校長と新倉先生のダブル受賞です。校長は、去年の140周年の取り組みをまとめたものです。新倉先生は、中1ギャップの解消のための様々な手立てをまとめたものです。

子どもたちががんばる、先生たちががんばる、それを保護者や地域の方々が、喜んでくださる。汐入小学校の良いところだと自負しています。



今の子どもたちを取り巻く環境

先日、校長の研修会で、興味深い話を聞いてきました。演題は、「精神科医からの学校現場への提言」です。精神科医として、日々治療にあたりながら、感じていることをお話してくださいました。納得できる部分があったので、いくつか引用させていただきます。

【今の子どもたちを取り巻く環境と子どもたちの印象について】

- ①親戚・地域とのつきあいの減少
会う大人は、親、先生、塾の先生くらい
→本校では、見守り隊の方が、毎朝声をかけてくださっています。
- ②コミュニケーションの質の変化
メール、携帯電話、そして、SNSの台頭
個対個、寂しさに耐えられない、いやになれば、断ち切れる関係性
一色に染まりやすい風潮、時に集団ヒステリー
→便利な情報交換手段の裏にある危険性を意識する必要があります。
メールで、デモ行進が起こったという報道を聞くと恐ろしくなります。
- ③情報が多い
先が読める、あるいは読める気になってしまう。→無気力につながる
ネガティブな情報に不安が生じやすい（財政の今後や年金制度等）
→うわさ話に振り回されて、不安になるという話をきいたことがあります。
- ④成果主義に代表される競争社会、就活の大変さ
→まだ先の話ですが、子どもは、大人たちの話を聞いているものです。
- ⑤その結果、失敗をおそれる若者たち（敗者復活が厳しいと考えられがち）
本当は、失敗から学ぶものが多い。成功体験は有頂天になるくらい。
→スポーツ選手やノーベル賞受賞者の話で、分かってはいるのですが、・・・。
- ⑥場を読むことの大切さが強調される
場の雰囲気を読んで合わせることを期待される。
それができないとKY（空気読めない）といじめの対象になりやすい。
他者からの評価に敏感で、精神的に疲れる。
それがつらくて、人を避けたりする。
→とてもいやな風潮です。本校では、無いと思いますが、もし、そんな気配を感じたら、すぐにご連絡ください。
- ⑦子どもたちが、強迫的な思考（「・・・ねばならない」）になりやすい。
若い時は、何とかなるのだが・・・。
→そう考えるタイプの子どものには、声をかけるようにしています。

【私が子どもたちに身につけてほしいと考えていること】

- ①健康な自尊感情を持つ
 - ②家族や故郷を愛する気持ち
 - ③しなやかに考えられる
 - ④夢（願い）を持ち続ける
- 「ふるさと」を語れる人は、様々な困難を乗り越えられるとお話されていました。自分自身が誇りに持てる所があり、そこに戻っていけるとのことだと思います。地域の方から、「あなたは、私たちの宝だ。」という気持ちを受けて育っている汐入の子どもたちは、幸せだと思います。



横浜新聞博物館見学（5年）